05 教育

現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

〇教育環境の充実

・中学校における全員給食の開始に伴い、配膳指導の強化・アレルギー対応に一層取り組み、安心で安全な給食を提供します。また、体育館空調の整備やエレベーターの設置など快適で誰もが使いやすい施設環境を整備します。

・学びの場としてオンライン・バーチャル空間の活用が進む中で、児童生徒が対面で学び合う教室などリアル空間の環境整備も課題です。

〇安心できる学びの場の必要性

・いじめをはじめ、こどもたちが抱える課題は多様化し、それぞれが相互に絡み合い複雑化しています。課題を抱え、安心できずに生活しているこども、つらい思いを抱えて生活するこどもに気づき、対応するための総合的な仕組みづくりに取り組むことが重要です。

〇グローバル教育の充実

・外国語を学ぶことで育まれるコミュニケーション力は、世界の人たちと出会って共に新たな価値を創っていくことの基礎であり、こどもたちが羽ばたく、地球規模の課題解決に向けて行動することが求められる「未来」を生きるために不可欠です。全ての児童生徒一人ひとりのニーズに合ったアウトプットの場を実現するために、英語を使う機会の更なる充実とAI及びバーチャル空間などの先端技術を活用した学びの機会を拡充することが重要です。

〇教員の養成・採用・育成の一体的推進、校務DXの推進

・全国的に教員のなり手不足が継続している現状を踏まえ、横浜の教育に対する興味関心・共感、更には期待感を醸成することにより、教員志望者を増やしていくことが重要です。そのためには、早い段階からの教員志望者の養成、魅力ある教員として求められる資質・能力の向上、働き方改革の推進が課題です。

・「子ども主体の学び」の充実を図るためには、それを支えるデジタル学習基盤の持続的運用が不可欠です。また、教職員がデジタル学習基盤を駆使できるようにすることが課題です。

目指す姿 - 4年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

・中学校全員給食を通じた食育の推進や学校施設の老朽化対策・快適性の向上など、誰もが安心して学べる環境を整えることで、より良い教育環境につながっています。

・グローバルに活躍する児童生徒の育成に向けた、プログラムの充実・支援の仕組みが整っており、こどもたちの能力や意欲向上につながっています。

・ICT活用指導力をはじめ、教職員自らが学び続ける姿勢で臨み、指導力が向上されることで、児童生徒の成長が図られています。

政策指標 -市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標-

教育環境が充実しているまちだと思いますか

57.4%

学校教育推進に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

横浜市教育振興基本計画

【関連するSDGsの取組】

10 教育環境の整備（ソフト・ハード）

方向性

教育DXの推進、児童生徒数の動向を踏まえた学校規模の適正化や学校施設の建替え・長寿命化を進めます。また、空調設備やエレベーターの設置・更新、トイレの洋式化、建物の断熱化、2026（令和８）年４月から開始する中学校全員給食の着実な推進等、児童生徒が適切な環境で学校生活を送ることができるよう、ソフト・ハードの両面から教育環境の整備を進めます。

指標

	現状	目標
栄養バランスを考えて食事をしている児童生徒の割合※【教育委員会事務局】	76.2%（R６時点）	80%
エアコン設置率※（市立小中学校体育館）【教育委員会事務局】	25%（R６時点）	100%
トイレ洋式化率（市立小中学校）※【教育委員会事務局】	88%（R６時点）	100%
エレベーター設置率（市立小中学校）※【教育委員会事務局】	63%（R６時点）	90%

11 安心して生活できる学びの環境づくり

方向性

誰もが多様な価値観や変化を受け止め、不確実性の高い社会をしなやかに歩んでいけるよう、特別な支援が必要な児童生徒、不登校児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒などが、どんなときでも安心できる柔軟で多様な学びの環境づくりを通じて、こども一人ひとりの可能性を最大限に広げます。

指標

	現状	目標
個別の教育支援計画等に基づき、一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた適切な指導・支援がされていると感じている保護者の割合【教育委員会事務局】	92.8%（R６時点）	95%
学校が安心できる場所だと感じている児童生徒の割合【教育委員会事務局】	小６:85.7% 中３:84%	小６:87% 中３:87%

12 学力の向上

方向性

不確実性が高い「未来」を生きるために、こども自身が興味をもって積極的に学ぶと共に、学習活動を振り返って次の学びにつなげ、自らの学びを創っていけるよう「子ども主体の学び」を実現し、資質・能力を着実に育成します。また、全てのこどもが、世界の人たちと出会って共に新しい価値を創造し、多様性や変化を受け止めて自らの可能性を最大化していけるように、デジタル学習基盤等も活用し、算数・数学やプログラミング、探究的な学びの取組の充実を図ると共に、先端技術を取り入れた英語教育を進めます。

指標

	現状	目標
横浜市学力・学習状況調査の数値の伸びを示した児童の割合（小６）【教育委員会事務局】	国:63.5% 算:66.1%	国:68% 算:70%
横浜市学力・学習状況調査の数値の伸びを示した生徒の割合（中３）【教育委員会事務局】	国:66.2% 数:69%	国:70% 数:73%
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている児童の割合（小６）【教育委員会事務局】	84.1%	90%
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている生徒の割合（中３）【教育委員会事務局】	59.5%	70%
中学卒業段階でCEFR A1相当以上の生徒の割合【教育委員会事務局】	65.4%	85%

13 教職員

方向性

全てのこどもの可能性を広げる学びの実現のために、教職員の養成・採用・育成・働き方の一体的な改革の推進を通じて、学び続けられる環境づくりを進めると共に、こどもの伴走者である教職員が心身共に充実した状態で資質・能力を高め続けることで、専門性を最大限に発揮して、児童生徒の成長につながる取組を進めます。

指標

	現状	目標
月の時間外在校等時間の平均時間※【教育委員会事務局】	35時間（R６時点）	30時間以下に抑制

【関連データ等】

●中学校全員給食の実施

●多様な「今」を大切に、可能性を広げる学びの推進

●メタバースなどの先端技術の活用

●グローバル社会で活躍できる人材の育成

【出典】教育委員会事務局